

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

堀川小	学校
-----	----

児童数	151名
-----	------

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	14.92	19.93	32.20	42.41	51.82	9.42	163.22	19.22	54.53
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	15.00	18.15	41.06	39.02	39.86	9.87	148.27	10.75	55.09
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

結果の概要

男子は、全国平均および大阪市平均に比べて8種目中で5種目（上体起こし・反復横とび・20mシャトルラン・50m走・立ち幅跳び）が上回った。

女子は、全国平均および大阪市平均に比べて8種目中で4種目（長座体前屈・反復横とび・20mシャトルラン・立ち幅跳び）が上回った。

体力合計点は、男女ともに全国平均および大阪市平均を上回った。

「運動やスポーツをすることは好きですか」では、男子が94.0%で全国平均より0.6%高く、大阪市平均より0.5%高かった。女子は87.7%で全国平均より1.9%高く、大阪市平均より2.7%高かった。

「1週間の総運動時間が60分未満の子ども」は、男子が2.3%で全国平均より7.5%少なく、大阪市平均より9.4%少なかった。女子は14.9%で全国平均より2.4%少なく、大阪市平均より5.1%少なかった。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

これまで体育科において、「自分の動きを言語化し、体現化につなげる」ことを主題として研究を進めてきた。授業では、教員が指導する「教える」場面と、児童が自ら課題に気づく「気づかせる」場面を明確に位置付け、運動技術については的確に「教え」、動きのこつやチームの作戦については「気づかせる」指導法の工夫に取り組んだ。また、授業の中で音楽を活用したり、児童同士が対話する機会を設けたりすることで、楽しみながら運動に向かう児童の姿が多く見られた。

トップアスリート「夢・授業」では、大阪市経済戦略局と連携し、チアリーディングの指導者を講師として招いた。プロの指導を受けることで運動への興味・関心が高まり、夢をもつことの大切さについても学ぶ貴重な機会となった。その結果、男子95.9%、女子89.0%が「体育の授業は楽しい」と回答している。

児童数が1,000名を超え、限られた環境で運動を行わなければならないという課題はあるものの、場所や時間の使い方を工夫し、十分な運動機会を確保できるよう取り組んでいく必要がある。

今回の結果から見えてきた課題をふまえ、児童が自ら楽しく運動に取り組むことができるよう、日々の授業改善を進めるとともに、環境整備にも引き続き努めていく。また、授業以外の時間においても「楽しみながら」「継続して」運動に向かうことができる環境づくりを進め、全校で取り組みを推進していきたい。